

2019 年度教育研究活動報告用紙（様式9）

氏名 飯野 祥之	職名 助教	学位 修士（看護学）（九州大学 2012年）
----------	-------	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学 看護教育学	クリティカルシンキング 臨床判断力 アクティブラーニング

研究課題
・看護学生の臨床判断力向上を目指した研究。

担当授業科目	
診療関連技術演習（前期 看護学科）	リハビリテーション看護学（前期 看護学科）
成人・老年看護学演習（前期 看護学科）	基礎看護学実習Ⅰ（後期 看護学科）
基礎看護学実習Ⅱ（前期 看護学科）	成人急性期看護学実習（後期 看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
<p>授業科目名【 診療関連技術演習 】</p> <p>与薬に関する技術演習（皮下注射、筋肉内注射）で指導教員として参加した。注射は危険の伴う処置であることを念頭に置き、安全に行うための適切な方法について指導を行った。1つ1つの手技・手順を説明するだけでなく、それぞれの根拠についてその都度説明し、正しい手順の必要性について理解を促した。</p>
<p>授業科目名【 リハビリテーション看護学 】</p> <p>摂食・嚥下障害のある患者、運動器に障害のある患者のリハビリテーション看護についての実技演習に参加した。前者に関しては、嚥下するときの姿勢や食事介助の方法について、良い例と悪い例の双方とも提示して、どのような援助が適切かを実感的に理解できるように配慮した。後者は階段教室で行った。転倒の危険があったため階段での杖を用いての昇降をする際は必ず学生の下に位置し、転倒予防に努めた。その上で杖歩行の困難な状況や適切に行う時のポイントなどを提示した。</p>
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習（前期 看護学科） 】</p> <p>＝看護過程＝</p> <p>慢性期の看護過程事例の改訂を行った。実際の演習においては、基本的な看護過程の展開の仕方や記述の仕方の理解を丁寧に説明することを心掛けた。アセスメントの視点がずれている場合が多かったため、各パターンのアセスメントの視点をかみ砕いて説明するとともに、アセスメントに必要な指標についても提示を行った。また、紙面の事例だけでなく、実習を意識して「実際の事例だったら～～」のように他の事例だとどのようなアセスメントの展開となるのかを具体的に説明した。</p> <p>＝技術演習＝</p> <p>術後の患者観察についての実技演習に指導、テストの評価をするために参加した。</p> <p>手術や病態について学生の知識の及ばないところはこちらから提示するとともに、既習の知識については教員側から積極的に問いかけ、記憶の想起や知識の深化・定着に努めた。また、術後患者の観察について、初回の説明時はかみ砕いて説明するとともに根拠を説明し、実技練習の際にその根拠を問いながら演習を進めた。</p>

<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ（後期 看護学科） 】</p> <p>初めて患者を受け持つ実習であり、患者とのコミュニケーションをとることが一番の目的であった。可能な限り患者と学生のコミュニケーションを直接見て、患者の非言語的な反応などをフィードバックし、コミュニケーションの意味を考えられるよう努めた。また、こちらから答えを与えるのではなく、患者とのやりとりや病態についてなぜそうなっているのかということを手力で導き出せるように発問するよう心がけた。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ（前期 看護学科） 】</p> <p>受け持ち患者のことをアセスメントし、看護過程を含めた看護展開を行う初めての实習であった。病態的に理解が及びにくいところがあったため、逐一病態の説明を行った。また、学生が積極的に看護実践を行えるように、教員も一緒に入り、ケアを行える機会を増やせるよう努めた。</p>
<p>授業科目名【 成人急性期看護学実習（後期 看護学科） 】</p> <p>術後侵襲における生体反応、整形外科手術、心臓外科手術、術後全身管理について事前学習内容を明確に提示して、術後の早い看護展開についていけるように学習を促した。また、術後の患者状態の理解を促すために、患者状態の説明をかみ砕いて行った。また、術後の変化やケアについて説明し、教員も一緒に観察やケアに入るようにして学生の理解力、看護技術の習熟度の把握に努めた。</p> <p>看護過程についての理解が進んでいない場合が多かったため、看護過程の各セクションの書き方や視点などについて学生の進行に合わせて説明を行った</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会	一般会員	2010年7月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称 (学会発表)	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
国家試験対策担当（2018. 4. 1～現在に至る） 1年次アドバイザー(2019. 4.1～現在に至る) 研究推進委員(2019. 4.1～現在に至る)